

問1 南蛮貿易によってもたらされた鉄砲と、当時の都市の関わりについて述べた文として、背景や理由を含めて正しく説明しているものはどれですか。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された
2. 鉄砲の製造に必要な火薬の原料が国内で豊富に採れたため、城下町ごとに小規模な自給自足の生産体制が整った
3. 江戸幕府の成立まで鉄砲の国内生産は禁止されていたため、長崎の出島を通じてのみ取引が行われた
4. 寺院が鉄砲の製造を独占したため、鉄砲の生産拠点となった都市では宗教勢力による支配が強まった

問2 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景と目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 将軍の命令を全国に徹底させ、守護大名の権限を制限することで幕府の権威を取り戻すため。
2. 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。
3. 朝廷から与えられた守護としての特権を誇示し、伝統的な荘園領主の権利を保護するため。
4. 海外との貿易を独占し、キリスト教の布教を認めることで南蛮文化を取り入れるため。

問3 ルターが始めた宗教改革において、彼はキリスト教徒が信仰の根拠として最も重視すべきものは何であると主張しましたか。

（2018年 福島県公立入試 類似）

1. 聖書
2. ローマ教皇の命令
3. 免罪符（贖宥状）
4. 教会が定めた儀式

問4 戦国時代において、武田氏や今川氏などの戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を直接支配するために独自に制定した法律を何というか。（2021年 京都公立入試 類似）

1. 分国法
2. 武家諸法度
3. 公家諸法度
4. 御成敗式目

問5 室町時代後半から戦国時代にかけて、各地で勢力を強めた戦国大名は、家臣や領民を統制し、自らの領国を独自のルールで支配しようとしていました。このように、戦国大名が領国支配のために独自に制定した法律を何といいますか。（2021年 岡山公立入試 類似）

1. 御成敗式目
2. 武家諸法度
3. 分国法
4. 十七条の憲法

問6 戦国大名が定めた法律の内容に多く見られる、「家臣同士が私的な争いを起こした場合、その理由の正当性を問わず、双方とも処罰する」という原則を何と呼びますか。（2020年 佐賀公立入試 類似）

1. 喧嘩両成敗
2. 連座（縁座）
3. 目目安箱
4. 奉公と恩賞

問7 ヨーロッパからアジアへ向かう海上航路において、アフリカ大陸の南端に位置し、中継地点として重要な役割を果たした場所の名称として正しいものはどれですか。（2020年 新潟県公立入試 類似）

1. 喜望峰
2. マゼラン海峡
3. パナマ運河
4. スエズ運河

問8 室町時代後半から戦国時代にかけて、実力のある者が身分の高い者に打ち勝って勢力を広げていく社会風潮が見られました。このような風潮を何と呼びますか。（2022年 熊本県公立入試 類似）

1. 惣領制
2. 下剋上
3. 徳政令
4. 寄合

問9 鎌倉時代において、3代執権の北条泰時が「御成敗式目（貞永式目）」を制定した目的や背景を説明したものとして、最も適切な内容を選びなさい。（2015年 岡山公立入試 類似）

1. 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と、貴族などの荘園領主との間で土地をめぐる争いが増えたため、公正な裁判の基準を設ける必要があった。
2. 今川義元などの戦国大名が分国法を作ったことに対抗し、全国の武士が幕府に対して絶対的な忠誠を誓うための精神的な規範を示す必要があった。
3. 元寇（モンゴル襲来）による出兵で困窮した御家人の不満を解消するため、借金を無償で帳消しにする徳政令の仕組みを全国に広める必要があった。
4. 平将門の乱を鎮圧した後に生じた関東地方の混乱を抑えるため、貴族の法律である律令を武士にも厳格に適用することを目的とした。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された	堺は古くから鋳物や刀剣の製造が盛んであり、その高い技術力が鉄砲の量産を支えました。また、堺は「会合衆」と呼ばれる豪商たちによる自治が行われていた自由都市であり、特定の戦国大名に完全に支配されることなく、各地の大名を顧客として鉄砲を販売することで大きな利益を上げ、さらに都市として発展しました。
問2	答え 2 領内の武士や農民の行動を統制し、領国を一つのまとまった組織として安定させ、他勢力との戦いに備えるため。	戦国大名は隣接する他の勢力と常に戦う状況にあり、領国内での内紛は命取りとなりました。そのため、武士たちの勝手な婚姻を禁止したり、農民が年貢を納める義務を明確にしたりすることで、領地全体を強かに統率し、富国強兵を図る狙いがありました。
問3	答え 1 聖書	ルターは、教会の権威や儀式、ローマ教皇の命令よりも、神の言葉が記された「聖書」こそが信仰の唯一のよりどころであると主張しました。彼はラテン語で書かれていた聖書をドイツ語に翻訳し、一般の人々が直接聖書の内容を理解できるように努めました。これは、教会の形式的な教えから脱却しようとする背景から生まれた考え方です。
問4	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代において、各地の戦国大名が自らの実力で領国を治めるために定めた独自の法を分国法（家法）と呼びます。これによって、大名は幕府の法に縛られることなく、独自のルールで領内を統制しました。
問5	答え 3 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の戦国大名は幕府の法律に頼らず、自分の領国（分国）を治めるための独自の法を定めました。これが分国法です。代表的なものに、武田氏の「甲州法度次第」や今川氏の「今川仮名目録」などがあります。これに対し、御成敗式目は鎌倉時代、武家諸法度は江戸時代に制定されたものです。
問6	答え 1 喧嘩両成敗	戦国大名にとって、領国内の家臣同士が私的な理由で武力衝突を起こすことは、領土の防衛力を低下させる大きなリスクでした。そのため、個別の事情に関わらず争いそのものを厳禁し、大名による一元的な裁判権を確立するためにこの原則が多くの方国法に盛り込まれました。
問7	答え 1 喜望峰	アフリカ大陸の最南端付近にあるこの地点は、ポルトガルの航海者バルトロメウ・ディアスによって到達され、のちにバスコ・ダ・ガマがここを通過してインド洋へと入り、インドへの航路を確立しました。大航海時代におけるインド航路の象徴的な中継地点です。
問8	答え 2 下剋上	室町幕府の権威が衰退した応仁の乱以降、身分に関わらず実力のある者が台頭する「下剋上」の風潮が強まりました。これにより、もともと守護大名の家臣であった守護代や、さらにその下の国人が、主君を追放して戦国大名へと成長していく動きが各地で加速しました。
問9	答え 1 承久の乱のあと、新しく任命された地頭と、貴族などの荘園領主との間で土地をめぐる争いが増えたため、公正な裁判の基準を設ける必要があった。	1221年の承久の乱によって鎌倉幕府の支配が西日本まで拡大しましたが、その結果、各地で地頭と荘園領主（公家や寺社）との間で土地管理や年貢をめぐる紛争が頻発しました。北条泰時は、武家社会の慣習に基づいた公平な裁判を行うための明確な基準として1232年に御成敗式目を定めました。これは武家独自の最初の法典であり、後の武家政治の大きな手本となりました。徳政令は13世紀末の永仁の徳政令が有名ですが、御成敗式目の制定目的とは異なります。